

1年次開講科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時
人文社会総論	人文社会科学の世界	4	田代 志門.小泉 政利.籠橋 俊光.嶋崎 啓	1	水 金	5 4
人文社会序論	現代日本学入門	2	西原 志保.茂木 謙之介	1	木	3
人文社会序論	現代日本学入門	2	茂木 謙之介.西原 志保	2	木	3
人文社会序論	インド学入門 仏教興起時代のインドにおける宗教と社会	2	西村 直子	2	月	3
人文社会序論	日本語を分析してみよう	2	大木 一夫.甲田 直美.中西 太郎	2	月	3
人文社会序論	2セメスターからのフランス語	2	黒岩 卓	2	火	2
人文社会序論	宗教学入門—Wikipediaを編集する—	2	問芝 志保	2	金	4
人文社会序論	社会科学レポート作成法—「知的生産」の基礎技術—	2	川口 幸大	1	火	3
人文社会序論	日本語教育学への招待	2	小河原 義朗	2	金	2
英語原書講読入門	英語文献による人文社会入門	2	浅岡 善治.荒井 崇史.荻原 理.川口 幸大.谷山 洋三.辻本 昌弘.内藤 真帆.直江 清隆	2	水 金	3 3

科目名：人文社会総論／ General Introduction to Humanities and Social Sciences

曜日・講時：前期 水曜日 5 講時. 前期 金曜日 4 講時

セメスター：1 単位数：4

担当教員：田代 志門. 小泉 政利. 籠橋 俊光. 嶋崎 啓

コード：LB00000, 科目ナンバリング：LHM-OHS201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：人文社会科学の世界

2. Course Title (授業題目)：World of Humanities and Social Sciences

3. 授業の目的と概要：・この授業は、文学部の必修科目であり、文学部の学生は1年次の第1セメスターに必ず履修する必要があります。

- ・毎週水曜第5時限と金曜第4時限に、文学部の26すべての専修について、代表する教員が各1回講義を行います。
- ・文学部生は、この全授業を受講し、人文社会科学というものを総合的に理解することが望まれます。
- ・課題として合計4つのレポートを作成し提出してもらうことになります。
- ・第1回の授業の際に詳しいオリエンテーションを行いますので、必ず受講してください。
- ・受講のうえで不明な点などがありましたら、上に名前を挙げた教員に聞いてください。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：・This course is compulsory for all first-year students of the Faculty of Arts and Letters in the first semester.

・In this course, all the 26 departments at the Faculty of Arts and Letters will offer a lecture on Wednesday 5th period or Friday 4th period.

・The students are expected to attend all lectures and explore the field of humanity and social science comprehensively.

・Four essays are required to complete this course.

・All students must take part in the first class session since an orientation will be conducted.

・If you have any concerns, please contact the above faculties.

5. 学習の到達目標：2024

6. Learning Goals (学修の到達目標)：2024

7. 授業の内容・方法と進度予定：

01. オリエンテーション

(以下、金曜日開講のテーマ / 水曜日開講のテーマ。変更の可能性有り。)

02. 中国思想の世界 / 考古学の世界

03. インド学仏教史学の世界 / 行動科学の世界 /

04. 「現代日本学」の世界 / 英語の詩を読んでみよう

05. 哲学の世界 / 東洋史の世界

06. 心理学の世界 / 日本語教育学の世界

07. 日本思想史の世界 / 倫理学の世界

08. 西洋史の世界 / 日本文学の世界

09. ドイツ文学の世界 / 日本語学の世界

10. 東洋・日本美術史の世界 / 宗教学の世界

11. フランス文学の世界 / クスッと笑える(?)美術の世界

12. 文化人類学の世界 / 英語学の世界

13. 日本史の世界 / 言語学の世界

14. 社会学の世界 / 中国文学の世界

15. 総括

8. 成績評価方法：

レポートの内容と授業への参加を総合して評価します（比重の目安は、レポート 60%、授業参加 40%）。

9. 教科書および参考書：

教科書：『人文社会科学の未来へー東北大学文学部の実践』（東北大学出版会、2022）

10. 授業時間外学習：2024

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

第1回の授業の際に詳しいオリエンテーションを行いますので、必ず受講してください。レポート提出の要領についてもアナウンスします。なお、毎時間、ミニットペーパー（コメント）を書いて提出します。

科目名：人文社会序論／ Introduction to Humanities and Social Sciences

曜日・講時：前期 木曜日 3 講時

セメスター：1 単位数：2

担当教員：西原 志保・茂木 謙之介

コード：LB00001, 科目ナンバリング：LHM-OHS203J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：現代日本学入門
2. Course Title (授業題目)：Introduction to Inovative Japanese Studies
3. 授業の目的と概要：本講義では現代日本学の前提的な知識を提示することによって、日本学という研究領野への導入を行う。日本学は日本という地域を多角的に考察する学問であるため、その対象や研究方法もきわめて多様であり、本講義では種々の方法論を提示する。また東北大学という機関における学的資源を活かした日本学の可能性を考える見地から、学内および大学周辺におけるフィールドワークを行う。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course covers the basic knowege of Inovative Japanese Studies to help students understand the characteristics of Japasese Studies. Japasese Studies is a discipline which think about Japan from various points of view. So in this course, the lecturer introduces some methods.
5. 学習の到達目標：2024
6. Learning Goals(学修の到達目標)：2024
7. 授業の内容・方法と進度予定：
内容及び進度予定は以下のとおりであるが、進行状況によって若干内容を変更する場合もある。
第 1 回 イントロダクション
第 2 回 日本学の歴史
第 3 回 日本学の方法論①
第 4 回 日本学の方法論②
第 5 回 日本学の方法論③
第 6 回 日本学の方法論④
第 7 回 日本学の方法論⑤
第 8 回 日本学の方法論⑥
第 9 回 日本学の方法論⑦
第 10 回 大学図書館から考える日本学
第 11 回 「災害アーカイブ」から考える日本学
第 12 回 大学史料館から考える日本学
第 13 回 公共博物館から考える日本学
第 14 回 レポートの書き方
第 15 回 まとめ
8. 成績評価方法：
履修者全体の上位 10%程度を「AA」とし、次に優秀な 20%程度を「A」とする。出席状況や課題レポートを総合的に評価する。
9. 教科書および参考書：
教科書として伴野文亮・茂木謙之介編『日本学の教科書』（文学通信、2022）を使用する。適宜参考書を紹介する。
10. 授業時間外学習：2024
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：人文社会序論／ Introduction to Humanities and Social Sciences

曜日・講時：後期 木曜日 3講時

セメスター：2 単位数：2

担当教員：茂木 謙之介、西原 志保

コード：LB00002, 科目ナンバリング：LHM-OHS203J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：現代日本学入門

2. Course Title (授業題目)：Introduction to Inovative Japanese Studies

3. 授業の目的と概要：本講義では現代日本学の前提的な知識を提示することによって、日本学という研究領域への導入を行う。日本学は日本という地域を多角的に考察する学問であるため、その対象や研究方法もきわめて多様であり、本講義では種々の方法論を提示する。また東北大学という機関における学的資源を活かした日本学の可能性を考える見地から、学内および大学周辺におけるフィールドワークを行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course covers the basic knowege of Inovative Japanese Studies to help students understand the characteristics of Japasese Studies. Japasese Studies is a discipline which think about Japan from various points of view. So in this course, the lecturer introduces some methods.

5. 学習の到達目標：2024

6. Learning Goals(学修の到達目標)：2024

7. 授業の内容・方法と進度予定：

内容及び進度予定は以下のとおりであるが、進行状況によって若干内容を変更する場合もある。

第1回 インTRODクダクシヨシ

第2回 日本学の歴史

第3回 日本学の方法論①

第4回 日本学の方法論②

第5回 日本学の方法論③

第6回 日本学の方法論④

第7回 日本学の方法論⑤

第8回 日本学の方法論⑥

第9回 日本学の方法論⑦

第10回 大学図書館から考える日本学

第11回 「災害アーカイブ」から考える日本学

第12回 大学史料館から考える日本学

第13回 公共博物館から考える日本学

第14回 レポートの書き方

第15回 まとめ

8. 成績評価方法：

履修者全体の上位10%程度を「AA」とし、次に優秀な20%程度を「A」とする。出席状況や課題レポートを総合的に評価する。

9. 教科書および参考書：

教科書として伴野文亮・茂木謙之介編『日本学の教科書』（文学通信、2022）を使用する。適宜参考書を紹介する。

10. 授業時間外学習：2024

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：人文社会序論／ Introduction to Humanities and Social Sciences

曜日・講時：後期 月曜日 3講時

セメスター：2 単位数：2

担当教員：西村 直子

コード：LB00003, 科目ナンバリング：LHM-OHS203J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：インド学入門 仏教興起時代のインドにおける宗教と社会
 2. Course Title (授業題目)：Introduction to Indology: Religion and society in early Buddhist India
 3. 授業の目的と概要：本授業では、A. L. Basham, History and Doctrines of THE ĀJĪVIKAS. A Vanished Indian Religion (アージーヴィカ教の歴史と教理. インドの消滅した宗教) (London 1951) 原文の講読を通じて、仏教興起時代（紀元前 5 世紀頃）に至るインドの宗教と社会の成り立ちを紹介する。受講者は予習として Basham の英語原文を和訳し、その内容について講師が解説する。サンスクリット語、パーリ語、並びにこれらの言語で伝承される原典についても随時紹介し、インドの言語文化に直接触れることのできる機会を提供する。今年度は前年度に終えた部分のコピーを配布し、本論部分から読み始める。
 4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course introduces overview of the history of religion and society in early Buddhist India (c. 5C. B.C.) based on A. L. Basham, History and Doctrines of THE ĀJĪVIKAS: A Vanished Indian Religion (London 1951). Students will translate some parts of this book into Japanese as preparation for the class. They also listen to lectures on the history of Indian Buddhism. This class will offer students an opportunity to get familiar with some passages of the Veda or Buddhist Canon traditioned in Sanskrit and Pāli, the languages of ancient India.
 5. 学習の到達目標：2024
 6. Learning Goals (学修の到達目標)：2024
 7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. イントロダクション インドの歴史と言語
 2. 講義① 仏教前史
 3. 講義② ブッダの生涯 誕生から出家まで
 4. 講義③ ブッダの生涯 出家から涅槃まで
 5. ー7. 講読ならびに解説
 8. 講義④ 仏典『沙門果経』
 9. 講義⑤ インド仏教史
 10. ー14. 講読ならびに解説
 15. まとめ
- ※上記は必要に応じて変更する場合がある。
8. 成績評価方法：

授業の準備状況 30%，授業及び提出物で示される理解度 30%，期末レポート 40%
 9. 教科書および参考書：

A. L. Basham, History and Doctrines of THE ĀJĪVIKAS. A Vanished Indian Religion. (必要な箇所を配布する)
 10. 授業時間外学習：2024
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：なし

科目名：人文社会序論／ Introduction to Humanities and Social Sciences

曜日・講時：後期 月曜日 3講時

セメスター：2 単位数：2

担当教員：大木 一夫, 甲田 直美, 中西 太郎

コード：LB00004, 科目ナンバリング：LHM-OHS203J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語を分析してみよう

2. Course Title (授業題目)：Introduction to Japanese Linguistics

3. 授業の目的と概要：日本語は、われわれのもっとも身近にある言語である。とはいえ、実際にはわからないこともさまざまにある。その日本語とはどのような言語であるのか、また、その日本語はどのように運用されているのか。そのような課題に答えるのが、日本語学という学問分野である。ここでは、この日本語学の考え方にもとづいて、現代日本語をさまざまな側面から考えてみる。まず、はじめに日本語学の考え方や分野について概説する。その後、日本語についての調査・分析を参加者自身がおこなっていく。日本語の方言を含むさまざまな日本語についての考察、現代日本語の具体的な運用についての考察をすすめ、報告、議論をおこなう。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course deals with the basic issues of Japanese linguistics and how they have been treated in the field of linguistics. You'll get an introduction to the main approaches used in linguistic research, including linguistic structure, phonetics, dialects, history, and discourse analysis. You'll apply the key methods used in linguistic descriptions to the analysis of your language, and discuss them with your classmates.

5. 学習の到達目標：2024

6. Learning Goals(学修の到達目標)：2024

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回 ガイダンス、日本語を知っているか

第2回 日本語はどのような言語か

第3回 日本語の発音

第4回 日本語の文法

第5回 語の意味

第6回 方言とは何か

第7回 方言調査のためのツール

第8回 身近な方言を調べてみよう

第9回 方言の歴史を調べてみよう

第10回 新しい方言を調べてみよう

第11回 文と文章、発話と会話

第12回 文章・会話のデータ

第13回 文章の分析

第14回 会話の分析

第15回 レポートへ向けて：日本語の分析

8. 成績評価方法：

講義内の課題・参加態度 (40%)、レポート (60%)

9. 教科書および参考書：

教科書は使わない。プリント使用。必要なテキスト等はコピーして配布する。

参考書は授業内で随時提示する。

10. 授業時間外学習：2024

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

受講者の積極的な参加・活動におおいに期待している。

科目名：人文社会序論／ Introduction to Humanities and Social Sciences

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

セメスター：2 単位数：2

担当教員：黒岩 卓

コード：LB00005, 科目ナンバリング：LHM-OHS203J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：2セメスターからのフランス語
2. Course Title (授業題目)：Elementary French
3. 授業の目的と概要：ゼロからフランス語の基礎を学びます。つまり、第1セメスターでフランス語を学んでいない、完全な初心者を対象とします。もちろん、フランス語を既に学んだことのある人、あるいは学びつつある人が、復習ややり直しのために参加することも可能です。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to let students obtain knowledge about elementary French grammar. Even those who have never studied French can participate in this course.
5. 学習の到達目標：2024
6. Learning Goals(学修の到達目標)：2024
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 第一回 導入および Leçon 1
 - 第二回 Leçon 2
 - 第三回 Leçon 3
 - 第四回 Leçon 4
 - 第五回 Leçon 5
 - 第六回 Leçon 6
 - 第七回 Leçon 7
 - 第八回 Leçon 8
 - 第九回 Leçon 9
 - 第十回 Leçon 10
 - 第十一回 Leçon 11
 - 第十二回 Leçon 12
 - 第十三回 Leçon 13
 - 第十四回 Leçon 14
 - 第十五回 Leçon 15
8. 成績評価方法：
 - 出席点 (100%)。
9. 教科書および参考書：
 - 渡辺降司・須田正樹著『ディアグラム [新訂版] ー運用力のつく仏検対応フランス語文法ー』、三修社、2019年。
10. 授業時間外学習：2024
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
 - ※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
 - 《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：なし

科目名：人文社会序論／ Introduction to Humanities and Social Sciences

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時

セメスター：2 単位数：2

担当教員：問芝 志保

コード：LB00006, 科目ナンバリング：LHM-OHS203J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：宗教学入門—Wikipedia を編集する—
2. Course Title (授業題目)：Introduction to the Religious Studies
3. 授業の目的と概要：①宗教とは何かについて、グループディスカッションを行いつつ、教員が簡単に講義を行う。
②宗教に関する新聞記事から、各自（受講生の数によっては班単位）で興味を持った話題を選び、その社会的、学術的背景や意義について調べ、発表する。
③②で得た知見を用いながら、オンライン百科事典 Wikipedia 内での関連項目を検討する。不足点や問題点を挙げ、どのように修正・更新すればよいか、授業内で議論する。
④活きた宗教に触れる。宗教者から話を聞か、地域の宗教施設を訪問して儀礼や宗教活動を実見する（詳細未定）。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：(1) The instructor will give a brief lecture on what religion is, with group discussion.
(2) From newspaper articles on religion, each student (or group) will select a topic of interest, research its social and academic background and significance, and present their findings.
(3) Using the findings from (2), review the relevant entries in the online encyclopedia Wikipedia. Identify any shortcomings or problems, and discuss in class how they can be corrected or updated.
(4) Exposure to active religion. Students may either hear from a religious leader or visit a local religious facility to observe rituals and religious activities in action.
5. 学習の到達目標：2024
6. Learning Goals(学修の到達目標)：2024
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - (1) イントロダクション
 - (2) 宗教とは① 宗教の意義とは？
 - (3) 宗教とは② 布教とは？
 - (4) 宗教とは③ 未来の宗教とは？
 - (5) 新聞記事発表準備
 - (6) 新聞記事発表①
 - (7) 新聞記事発表②
 - (8) 新聞記事発表③
 - (9) Wikipedia とは何か
 - (10) Wikipedia 項目検討①
 - (11) Wikipedia 項目検討②
 - (12) Wikipedia 項目検討③
 - (13) 宗教の現場を知る
 - (14) ディスカッション
 - (15) まとめ
8. 成績評価方法：

授業中の発表、議論への参加状況による。
9. 教科書および参考書：

教科書は特に指定しない。参考書は授業中に指示する。
10. 授業時間外学習：2024
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：人文社会序論／ Introduction to Humanities and Social Sciences

曜日・講時：前期 火曜日 3講時

セメスター：1 単位数：2

担当教員：川口 幸大

コード：LB00007, 科目ナンバリング：LHM-OHS203J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：社会科学レポート作成法－「知的生産」の基礎技術－

2. Course Title (授業題目)：Writing a Social Science Paper: Introduction to Basic Skills of "Knowledge Production"

3. 授業の目的と概要： この授業の目的は、文化人類学、心理学、社会学、組織学、開発学、地域研究、ジェンダー論などの社会科学を学びたいと考えている新入生に、4年間の大学生活で必要な「研究」のスキルを体得してもらうことです。そのため、自分で自分に問題を出して「研究」を行い、A4用紙10枚（400字詰原稿用紙25枚）以上の研究レポート作りにチャレンジしてもらいます。

この授業では、図書館の使い方、インターネットの使い方、教師との付き合い方、問題の見つけ方、資料の集め方、レポートの書き方の基本的なスキルとマナーを、実際に自分で研究に取り組みながら、学んでいきます。これらのスキルとマナーは、授業のレポートだけでなく、卒業研究・卒業論文にも役立つものです。一年生のうちに、しっかり身につけましょう。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course is designed to provide basic training in research skills necessary at the undergraduate level for those students interested in social sciences such as cultural anthropology, psychology, sociology, organization studies, development studies, area studies and gender studies. Students are required to find research problems by themselves, conduct research by themselves, and write up a research paper (10-pages or more).

Students will learn how to conduct library and internet research, how to associate with teachers, how to find research problems, how to collect and analyze data, and how to write an academic research paper.

5. 学習の到達目標：2024

6. Learning Goals (学修の到達目標)：2024

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業予定は以下の通りです。

第1回 導入—履修方法の説明—

第2回 研究トピックを探す(1)

第3回 研究トピックを探す(2)

第4回 研究テーマを探す(1)

第5回 研究テーマを探す(2)

第6回 研究の構想を立てる(1)

第7回 研究の構想を立てる(2)

第8回 資料を探し、データを集める

第9回 質的データに「事実」を語らせる

第10回 量的データに「事実」を語らせる

第11回 誠実に、論理的に書く

第12回 序論を書く

第13回 本論の書き進める

第14回 結論を導き出す

第15回 形式を整える

各回の授業のテーマを詳しく説明したプリント資料を、初回の授業の際に配布します。毎回、課題を出し、様々な作業をしますが、それらの課題を順番にこなしていくうちに、自然とレポートの材料が集まっていく仕組みになっていますから、安心して取り組んでください。

Google クラスルームとGメールを使って日常的に教員やクラスメートとコミュニケーションを取り、互いにアドバイスしあいますが、一緒に研究を進めていきます。また、Google ドライブを使って、下書から完成稿まで、教員が手取り足取り添削指導します。

なお、受講生の研究の進み具合に応じて、授業予定は変更されることがあります。また、新型コロナウイルス感染症の状況と、東北大学行動指針レベルによっては、授業実施方法を変更することもあります。

*やさしくていねいに指導しますから、心配しないで履修してください。

8. 成績評価方法：

授業課題(25%)と最終レポート(75%)で評価します。詳しくは初回の授業で説明します。

9. 教科書および参考書：

沼崎一郎『はじめての研究レポート作成術』岩波ジュニア新書

阿部紘久『文章力の基本』日本実業出版社

10. 授業時間外学習：2024

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：なし

事前に教科書を入手して目を通しておいてください。特に、第1回の授業前に『はじめての研究レポート作成術』第1章をよく読んで、この授業で求められる「研究」のイメージをつかんでください。

文学部生で文化人類学専修を希望する学生は、ぜひとも履修してください。今後の勉強の土台になるし、卒論を書くとき、この授業のありがたみを実感するはずです。

科目名：人文社会序論／ Introduction to Humanities and Social Sciences

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

セメスター：2 単位数：2

担当教員：小河原 義朗

コード：LB00008, 科目ナンバリング：LHM-OHS203J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語教育学への招待
2. Course Title (授業題目)：Introduction to Applied Japanese Linguistics
3. 授業の目的と概要：日本語教育学とはどのような研究・学問領域なのか、どのようなおもしろさや社会的役割があるのか、そして日本語を教えるとは具体的にどのようなことなのかについて、様々な活動を通して理解する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This class provides students with opportunities to think about what Japanese language education is. The students will have various kinds of experiences such as carrying out micro teaching activity and analyzing conversation with foreign exchange students.
5. 学習の到達目標：2024
6. Learning Goals (学修の到達目標)：2024
7. 授業の内容・方法と進度予定：
スケジュール (予定)
 - 1 オリエンテーション
 - 2 日本語を教えるとは
 - 3 誰に教えるのか
 - 4 誰が教えるのか
 - 5 何を教えるのか
 - 6 マイクロティーチング①
 - 7 マイクロティーチング②
 - 8 マイクロティーチング③
 - 9 日本語教育学の研究①
 - 10 接触場面におけるコミュニケーション分析①
 - 11 接触場面におけるコミュニケーション分析②
 - 12 接触場面におけるコミュニケーション分析③
 - 13 日本語教育学の研究②
 - 14 日本語教育と社会
 - 15 まとめ
8. 成績評価方法：
課題 50%、レポート 50%
9. 教科書および参考書：
教科書は使いません。参考書等は授業内で随時提示します。
10. 授業時間外学習：2024
 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicate the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 2. その他：なし
日本語教育学専修を希望、あるいは検討している文学部 1 年生が主な対象です。日本語教育学専修を希望する学生はなるべく履修してください。日本語教育に興味関心がある学生も歓迎します。クラスは、講義ではなく、参加学生によるディスカッションやプレゼンテーション、模擬授業（第二外国語）が中心になります。

科目名：英語原書講読入門／ Introduction to Academic Reading in English

曜日・講時：後期 水曜日 3 講時、後期 金曜日 3 講時

Semester : 2 単位数 : 2

担当教員：浅岡 善治、荒井 崇史、荻原 理、川口 幸大、谷山 洋三、辻本 昌弘、内藤 真帆、直江 清隆

コード：LB00009, 科目ナンバリング：LHM-OHS202J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：英語文献による人文社会入門

2. Course Title (授業題目)：Introduction to Humanities through Reading English Documents

3. 授業の目的と概要：本授業では、各授業担当者の専門領域に関わる内容の英語文献を講読します。英語原書文献の読解力は二年次以降の学習・研究にとって重要であるばかりでなく、文学部卒業生に期待される基礎学力として欠かせません。英語原書文献の正確な読解には、語学的読解力と論旨を正確に把握する思考力が必要となります。加えて、トピックの背景知識や、その他の一般的知識も必要です。したがって、英語辞書等の活用に加えて、語学以外の側面についても自ら調べる姿勢が重要となります。本授業では、専門課程で必要となる「読み方」や「調べ方」を身につけてもらうことを特に重視します。各授業の具体的な内容は授業紹介を参照してください。また、授業方法、評価方法等の詳細は、授業開講時に各担当者が指示します。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course is designed to develop students' skill of reading English texts in humanities. The ability of reading English is required not only in the courses offered in undergraduate and graduate programs, but expected as a fundamental skill of graduates from our school. In reading academic English, you need to have the ability to think logically and critically, as well as the precise knowledge of English grammar. Moreover, because the background knowledge is often required to understand the text, the ability of finding necessary information is very important. In this course, therefore, students are expected to acquire both the skill of reading and of finding information. As for the content of each class, look at the course description. At the first class, teachers will give students detailed information about the text, grading, and how the class will proceed.

5. 学習の到達目標：2024

6. Learning Goals(学修の到達目標)：2024

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) イントロダクション
- 2) 学術英語の読解演習 (1)
- 3) 学術英語の読解演習 (2)
- 4) 学術英語の読解演習 (3)
- 5) 学術英語の読解演習 (4)
- 6) 学術英語の読解演習 (5)
- 7) 学術英語の読解演習 (6)
- 8) 学術英語の読解演習 (7)
- 9) 学術英語の読解演習 (8)
- 10) 学術英語の読解演習 (9)
- 11) 学術英語の読解演習 (10)
- 12) 学術英語の読解演習 (11)
- 13) 学術英語の読解演習 (12)
- 14) 学術英語の読解演習 (13)
- 15) 学術英語の読解演習 (14)

8. 成績評価方法：

各担当教員が授業開始時に指示します。

9. 教科書および参考書：

各担当教員が授業開始時に指示します。

10. 授業時間外学習：2024

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

1～5 クラスは水曜日 3 校時

6～8 クラスは金曜日 3 校時